

第3回目（1993年10月？日放送）

【いろはがるた】

「盗人の昼寝」: A puzzling nap by a thief¹.

【話の内容】

20年位前に山本常一(元ハワイ報知社長)からもらった手紙を紹介する。

山本は4月20日の「ヒロタイムス²」に掲載されたホレホレ節の記事を面白く読んだという。ホレホレ節の名人米屋三代槌(こめやみよつち・米屋旅館の館主)の直弟子であった山本は、戦後、日本でレコーディングなどをするほど、ホレホレ節に明るかった。しかし、戦後に歌われていた歌は、パーティー等に合うように変えられており、歌本来の機微が分からないと山本氏は言う。

「ヒロタイムス」の記事によると、このホレホレ節の元歌のようなものは峯岸繁太郎³により作られたそうだ。峯岸は「太平楽⁴」という本を出しており、山本はこの本に非常に感銘を受けたという。

広島の実節がハワイに来てホレホレ節になった。「広い太平洋によお、なぜまあこんな小さい島を作った」というのが実節であった。ホレホレとは、女性の仕事で、サトウキビの枯れた葉っぱを剥く仕事である。それからカチケン⁵して、ホウハナ⁶して、ハツパイコー⁷してミル(圧搾機)へ持って行く。それらの仕事は女性たちの仕事で、写真花嫁たちは黙っているとしんどいので、歌いながら作業をしていた。

みんなの先陣を切って歌うリーダーはプランテーションから25セントをもらっていた。

¹ 意味をなさない文である。“A purposeful nap”を読み間違えたか。音トビしており、第4回目の放送と同じ音声が出る。

² 1955年に大久保が発刊した新聞。

³ 峯岸繁太郎は『京城新報』の社長。水戸出身で、小笠原や南洋諸島、ハワイの開拓に携わる(金泰賢, 『朝鮮における在留日本人社会と日本人経営新聞』, 神戸大学, 2011年学位取得論文参照)。

⁴ 大久保は「太平楽」の著者を峯岸重太郎としているが、移民研究者の飯田耕二郎によれば曾我部四郎の保能武義塾に関係していた奥山藤太郎(愛媛県宇和島市吉田町出身)の可能性が高いという。

⁵ Cutting cane のこと。サトウキビを切る作業。

⁶ Hoe hana のこと。Hoe は英語で鍬、hana はハワイ語で仕事の意。サトウキビを切った後、地面を鍬でならす作業。

⁷ Hāpaikō のこと。Hāpai はハワイ語で運ぶ・背負うの意。Kō はハワイ語でサトウキビの意。切ったサトウキビを担いで運ぶ作業。

合いの手を「そのわきやチャツチャで、ヌイヌイ○○⁸」といれる。

しかし、「太平楽」という本に収録されているホレホレ節には、ハイクラスなユーモアと哲学が見える。

「ハワイ八島はよお、砂糖と共に、とうとうメリケンに舐められた」米布合併に関する歌。

「鬼をも食うようなよお、カナカ⁹のワヒネ¹⁰、あれもポイ¹¹食うて育ったか」同じものを食べて育ったはずなのに、ハワイアの女性は恐ろしいほど大きい。

「ハワイじゃ気ままのよお、モイモイ¹²なされ。明けのカラスが鳴きやすい。カラス鳴くよりよお、寺の鐘よりも、朝の出鐘がなおつらい」誰かが死ぬよりも、起こしの鐘¹³が聞こえるのが悲しい。

「故郷で損してよお、ハワイで儲け、やがて故郷へ帰り花」花と「～ばな」という広島弁(口調)をかけているしゃれた歌。

「行こかアメリカよお、戻ろか日本、ここが思案のマウイ島(迷い島)」戦後の歌は、「行こかメリケン、帰ろうかジャパン、ここが思案のハワイ島」というが、オリジナルはちよつと違った。

「ハワイ八島をよお、渡りのワヒネ、三々九度目のカネ¹⁴は誰」ハワイ諸島を渡り歩く娼婦が、339人目の男は誰か？ということだが、結婚と掛けている。

「たとえ弁当はよお、忘るとても、忘れしやすな雨合羽」

ホノルルでは雨が降っても軽いシャワーで済むが、ヒロでは大雨となる。雨除けの支度をしなくては、大ごとになる。

【曲】

⁸ たとえば「そのわきやチャツチャでヌイヌイハナハナ」など。ヌイヌイはハワイ語で大きい・たくさんを表す nui、ハナハナはハワイ語で仕事を表す hana を繰り返したもの。

⁹Kanaka. ハワイ語で人間の意。後から来た移民たちに対し、先住民であるハワイアンを意味する言葉で使われる。

¹⁰Wahine. ハワイ語で女性・妻の意。

¹¹蒸したタロイモに水を加えながらつぶしたもの。ハワイを含むポリネシアの島々で主食として食べられている。

¹²Moi. ハワイ語で寝るという意味の語を二回繰り返したもの。

¹³愛知県犬山市にある博物館明治村には、大久保が寄贈した「ペペケオ耕地の鐘」が「ハワイ移民集会所」エリアに展示されている。

¹⁴Kane. ハワイ語で男性・夫の意。

「ホレホレ音頭¹⁵」（作詞・作曲：レイモンド服部 歌：島倉千代子・村田英雄）

【サブジェクトタグ】

ハワイ報知 ホレホレ節 サトウキビプランテーション プランテーションの暮らし ピン語

¹⁵ ハワイ日本人移民七十五年記念としてつくられた。民謡風で哀調の「ホレホレ節」とは違って、明るい曲調で踊りも添えられ、今でも盆踊りで踊られる（中原ゆかり（2014）『ハワイに響くニッポンの歌ーホレホレ節から懐メロ・ブームまで』人文書院.）。